

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：32629

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720128

研究課題名(和文) 仏教との関係性を軸とする新たな和歌史の構築に向けた総合的研究

研究課題名(英文) The building of new waka history about Buddhism

研究代表者

平野 多恵(hirano, tae)

成蹊大学・文学部・准教授

研究者番号：60412996

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、和歌と仏教がせめぎあいつつ絡みあう中世に焦点を当て、慈円・明恵・無住などの時代の思想を象徴する僧侶による詠歌活動、時代の思想と政治を反映する勅撰集における釈教歌に注目し、僧侶の詠歌や釈教歌の特質を分析し、僧侶の和歌にあらわれた時代の思想および、『新後撰和歌集』や『続千載和歌集』の釈教部にあらわれた政治性と宗教性を具体的に明らかにした。これらを通して、和歌と仏教の関わりを多角的に解明し、仏教との関係を軸にした新たな和歌史の構築を試みた。

研究成果の概要(英文)：The cases of the Shingosen-shu and the Syokuzenzai-shu suggest that the shakkyka sections of the late medieval imperial waka anthologies reflect both the religious and the political concerns of the ruling authorities of the time. Investigation of the Buddhist poetry contained in the many other anthologies of the period is sure to reveal many other problems relating to contemporary social structure and religious belief.

研究分野：日本文学

キーワード：釈教歌 勅撰和歌集 慈円 無住 明恵 続千載和歌集 新後撰和歌集

1. 研究開始当初の背景

日本中世は国家の枠組みが仏教に深く支えられ、文化的事象のほとんどに仏教の影響が及んでいた。日本固有の文学である和歌も仏教を取り込み、仏教に関する事柄を詠む「釈教歌」を生み出した。和歌と仏教とが密接に関わる釈教歌や僧侶の詠歌行為には、仏教に支えられた中世という時代の重要な特質が潜んでいるが、歴大で難解な仏教經典の読解が壁となって、その重要性にも関わらず研究は十分に深められていなかった。

釈教歌には、仏典の漢語をやわらげて詠むものがある一方、真言等の仏教語を丸ごとに取り込んだ歌もある。こうした歌は本来、和語で表現されるべき和歌の根本に反する。しかし、慈円や明恵など、中世を代表する僧侶自身がこうした歌を詠んでおり、これらの中には和歌と仏教をめぐるせめぎ合いが見出される。こうした和歌と仏教との拮抗の結果として生まれたのが和歌即陀羅尼觀と考えられる。和歌即陀羅尼觀は中世和歌が最終的に行き着いた和歌觀として長く注目されてきたが、当時の思想的背景をふまえた上で和歌即陀羅尼觀を捉えた研究は十分に行われていなかった。

釈教歌は、天皇の権威の象徴であった勅撰集にも取り込まれた。「釈教」の部立が『千載集』で初めて独立し、以後の勅撰集に不可欠となったことは、よく知られている。平安時代から鎌倉時代初期までの釈教歌の生成と流布が勅撰集歌を中心に分析されてきたが、それ以後の時代の研究は手薄である。

こうした状況のもと、申請者は従来、鎌倉初期の僧・明恵を軸として仏教と和歌の問題に一貫して取り組み、明恵の著作や講義録などの読解・分析を緻密に行い、和歌にあらわれた思想の具体相を明らかにしてきた。さらに、『檜葉和歌集』『続門葉和歌集』『安撰和歌集』の所収歌を析出し、中世の寺院文化圏で編まれた私撰集が、各寺院宗派の依拠する經典や思想を積極的に和歌に詠み込んでいることも見出した。このように、申請者は中世僧侶による詠歌活動を精力的に読み解いているが、研究を進めるにつれ、僧侶における和歌の意義や和歌と仏教の関わりをより本質的に解明するには、僧侶による詠歌行為を更に多角的に検討する必要があると感じるようになった。

2. 研究の目的

日本において僧侶の多くは和歌を詠み、仏教思想を詠む釈教歌も広く浸透した。日本固有の和歌と外来の仏教が相克を超えて受容し

ていく過程には、外の文化を取り込んで内なる力にしてきた日本文化の特質がひそんでいる。そこで本研究では、和歌と仏教がせめぎあいつつ絡みあう中世に焦点を当て、大寺院僧侶の詠歌活動、時代の思想と政治を反映する勅撰集、時代の思想を象徴する僧侶の詠歌、和歌即陀羅尼觀などの複眼的視点から、僧侶の詠歌や釈教歌の特質を分析し、和歌と仏教の関わりを多角的に解明する。これによって、仏教との関係を軸にした和歌史を新たに立ち上げ、中世文化の本質に関わる新たな知見と枠組みを提出することを目的とした。

3. 研究の方法

研究方法は以下の 1 ~ 4 の四つである。

- 1 中世の寺院文化圏と関わる歌を読み解き、歌の典拠となる經典や文学作品を分析して大寺院僧の詠歌行為の意義を明らかにする。
- 2 2 中世後期の勅撰集、とくに『新後撰集』『続千載集』『新千載集』所載の釈教歌のうち、従来の勅撰集で典拠とされたことのない經典に基づく歌を分析して、勅撰集の釈教部における宗教性と政治性を明らかにする。
- 3 慈円・明恵・無住の和歌と思想の関連を分析する。
- 4 4 上記 1 ~ 3 の研究をふまえ、仏教語、とくに真言を詠み込んだ釈教歌を、当時の思想的・政治的な状況をふまえながら分析し、和歌と仏教の関わりを多角的に解明した。

4. 研究成果

1 2 については、『新後撰集』『続千載集』の釈教歌を分析する中で、下命者である後宇多院をはじめ、後宇多院を取り巻く僧侶たちの詠歌がどのようなものであったかを明らかにした。さらに、後宇多院の宗教政策と勅撰集の釈教部との関わりを分析し、後宇多院による勅撰和歌集においては釈教部に為政者の宗教性が反映されていることを論証した。さらに足利尊氏執奏による『新千載集』の釈教部にも、尊氏の意向が反映していることを指摘した。この成果は学会発表 Shakkyōka of the Late Medieval Imperial Waka Anthologies で公にし、さらにそれを発展させて雑誌論文「中世後期勅撰集の釈教歌」で活字化した。

3 については、図書「明恵 菩提への道」、図書「秋篠月清集 明恵上人歌集」、学会発表「明恵の夢と和歌」および図書において明恵の和歌の特質を明らかにし、図書「無住における和歌『沙石集』の増補

改訂と詠歌活動」では『沙石集』の増補改訂における和歌の出入りを分析して、無住の和歌の特質をあきらかにした。さらに論文「釈教歌の方法と文体」では真言や梵字を取り込んだ慈円の和歌を分析し、仏教語を和歌に取り込むことの意義について考察した。

4 については、論文において、真言を取り込む和歌の方法について論じ、和歌が真言を必要とした理由を考察した。さらに仏教を軸とした和歌史の構築の試みとして、図書「無常観の形成 和歌の果たした役割」では日本的な無常観の形成に和歌がどのような影響を与えたかを考察し、学会発表「中世における釈教歌と女性」では、釈教歌の歴史の中で、女性が果たした役割について明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

平野多恵「中世後期勅撰集の釈教歌 『新後撰和歌集』『続千載和歌集』の宗教性と政治性」『国語と国文学』2015年5月号、128～141頁

平野多恵「釈教歌の方法と文体」『日本文学』2014年7月号、21～34頁

〔学会発表〕(計4件)

平野多恵「中世後期の勅撰集における釈教歌」2013年12月、和歌文学会12月例会、於白百合女子大学

平野多恵「中世における釈教歌と女性」2013年6月、「女性・文学・仏教」国際シンポジウム、於北京日本学研究中心

Tae HIRANO, Shakkyōka of the Late Medieval Imperial Waka Anthologies, 2013年3月1日, Waka workshop, Yale University, U.S.A

平野多恵「明恵の夢と和歌」, 2012年4月21日、国際日本文化研究センター共同研究「夢と表象 メディア・歴史・文化」2012年度第1回共同研究会、国際日本文化研究センター

〔図書〕(計4件)

谷知子・平野多恵校注『秋篠月清集 明恵上人歌集』和歌文学大系 60、269～310頁、333～339頁、361～394頁、416～418頁
2013年12月、明治書院

平野多恵「無常観の形成 - 和歌の果たした役割」『日本思想史講座 第2巻』183～223頁、末木文美士他編、2012年7月、ペリカン社

平野多恵「無住における和歌 『沙石集』の増補改訂と詠歌活動」、『無住 - 研究と資料』、190～213頁、小島孝之監修、長母寺開山無住和尚七百年遠諱記念論集刊行会編、2011年12月

平野多恵「明恵 菩提への道」, 阿部泰郎・錦仁編『聖なる声 和歌にひそむ力』273～301頁、2011年5月、三弥井書店

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平野多恵 (HIRANO, Tae)
成蹊大学・文学部・准教授
研究者番号：60412996

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：